

Expedite Base/400 V4.6.1

プログラム資料説明書

プログラム名 : Expedite Base/400

バージョン : 4 リリース : 6 モディフィケーション : 1

2006年 4月30日

第1版

GXS 株式会社

(c) 2006 GXS, Inc. All rights reserved.

目次

1. プログラム関連資料	-----1
2. 機械可読資料	-----1
3. 配布媒体のフォーマット	-----1
4. ハードウェア、ソフトウェア要件	-----1
5. プログラム保守	-----2
6. 導入手順	-----2

1. プログラム関連資料

下記の資料がプログラムと共にダウンロードできます。

- Expedite Base/400 Programming Guide Version 4 Release 6 (GC34-2254-02)
- Expedite Base Programming Commands Quick Reference (GC34-2328-03)
- Expedite Base/400 V4.6.1 プログラム資料説明書 (GXS-E004-00)
- Expedite Base シリーズ プログラミング・コマンド解説書 (GXS-E001-00)

2. 機械可読資料

プログラムは下記の媒体にて配布されます。

3. 配布媒体のフォーマット

zip 形式による圧縮ファイル

入手方法はインターネットからのダウンロードのみになります。PC で受信後、iSeries または AS/400 システムに導入してください。

4. ハードウェア、ソフトウェア要件

このプログラムのこのリリースは、次のソフトウェア、ハードウェアのもとで稼働するように設計されています。

4-1. ソフトウェア

OS/400 バージョン5 リリース1 または バージョン5 リリース2

TCP/IP ダイアルアップ接続をお使いになる場合は、以下のソフトウェアも必要になります。

iSeries Access for Windows

このプログラムは iSeries Access Family (5722-XW1) に含まれています。

4-2. ハードウェア

上記 OS が稼働可能な iSeries または AS/400® システム装置

上記のシステムの他に、接続の形態によって、以下のハードウェアが必要になります。

1) LU62 接続の場合

LU62 接続のための専用回線または公衆回線、およびモデム

2) TCP/IP 接続の場合

TCP/IP 接続のための専用回線または公衆回線、およびモデム
さらに TCP/IP ダイアルアップ接続の場合は
システムに接続された **iSeries Access for Windows** が稼動する PC 端末
も必要になります。

* iSeries、AS/400® は IBM Corporation の登録商標です。

5. プログラム保守

プログラム・サービスの詳細については、弊社営業担当員におたずねください。

6. 導入手順

インターネットからのプログラム入手方法については『**Expedite Base** シリーズ ダウンロード ガイド』を、導入については添付の『**Expedite Base/400 V4.6.1 導入ガイド**』および『**Expedite Base/400 Programming Guide Version 4 Release 6**』をご覧ください。

Expedite Base/400 V4.6.1

導入ガイド

目次

1. Expedite Base/400 の導入	1
1-1. 事前準備	1
1-2. モジュールの転送	2
2. SNA LU62 接続のための設定	4
2-1. 構成リストの変更 (WRKCFGL)	4
2-2. モード記述作成 (CRTMODD)	5
2-3. 回線記述の作成 (CRTLNSDLC) (専用回線の場合)	6
2-4. 制御装置記述の作成 (CRTCTLHOST) (専用回線の場合)	7
2-5. 装置記述の作成 (CRTDEVAPPC) (専用回線の場合)	8
2-6. 回線記述の作成 (CRTLNSDLC) (公衆回線の場合)	9
2-7. 制御装置記述の作成 (CRTCTLHOST) (公衆回線の場合)	10
2-8. 装置記述の作成 (CRTDEVAPPC) (公衆回線の場合)	11
3. TCP/IP 接続のための設定	12
3-1. TCP/IP ダイアルアップ接続のための準備	12
3-2. PPP 回線の接続プロファイルのセットアップ	13
3-3. 回線記述の作成/変更	17
4. Expedite Base/400 の実行	20
4-1. プロファイルコマンドファイルの作成	20
4-2. メッセージコマンドファイルの作成	20
4-3. 通信の開始	20
4-4. Expedite Base/400 の実行	21
4-5. ご利用上の注意点	22

1. Expedite Base/400 の導入

1-1. 事前準備

始めに PC にダウンロードして解凍したモジュールを iSeries または AS/400 システム (以下「システム」と略記します) に転送しますが、その前に、システム上の同一のライブラリーに、プログラムライブラリー用のモジュールを保管するファイルと、モジュールライブラリー用のモジュールを保管するファイルを作成しておく必要があります。

ここでは、それぞれのファイル名を “EXPBLIBR” と ”EXPBLIBRM” とします。

(このファイルの名前は、任意のもので構いません)

1) ライブラリーの作成

あらかじめファイルを作成するためのライブラリーを決めておいてください。必要であれば、CRTLIB コマンドで新規に作成してください。

以下の例では、ファイル作成用のライブラリーのことを “library” と記載します。

2) ファイルの作成:

システムのコマンドラインに “CRTSAVF” と入力して PF4 を押し、ファイル名と 1) で決めたライブラリー名を指定してください。

以下は、ファイル “EXPBLIBR” を作成する例です。

保管ファイル作成 (CRTSAVF)	
選択項目を入力して、実行キーを押してください。	
保管ファイル	EXPBLIBR ← 作成するファイル名
ライブラリー	library ← 1) で決めたライブラリー
テキスト ‘記述’	EXPEDITE BASE/400 V4R6M1 PROGRAM AND FILES

同様に、”EXPBLIBRM” を作成してください。

保管ファイル作成 (CRTSAVF)	
選択項目を入力して、実行キーを押してください。	
保管ファイル	EXPBLIBRM ← 作成するファイル名
ライブラリー	library ← 1) で決めたライブラリー
テキスト ‘記述’	EXPEDITE BASE/400 V4R6M1 MODULES

1-2. モジュールの転送

インターネットから PC にダウンロードしたモジュールを、FTP を用いてシステムに転送します。転送する際は、必ず **binary mode** をご使用ください。

1) PC 側からシステムに FTP でログインして、**binary mode** を指定します。

(以下は PC のコマンドプロンプトでの操作の様子を示しています。)

```
C:\> ftp xxx.xxx.xxx.xxx    ← 解凍したモジュールのあるディレクトリから
                               実行してください。

Connected to xxx.xxx.xxx.xxx
220-QTCP AT hostname
220 CONNECTION WILL CLOSE IF IDLE MORE THAN 5 MINUTES.
User (xxx.xxx.xxx.xxx:(none)): userid    ← システムのユーザーIDを指定して
                                         ください。

331 ENTER PASSWORD
Password:                            ← パスワードを指定してください。
230 userid LOGGED ON.
ftp> bin                               ← ログインした後、binary mode を指定します。
200 REPRESENTATION TYPE IS BINARY IMAGE.
ftp>
```

2) FTP の **cd** サブコマンドで 1-1. で作成したライブラリーをカレントライブラリーに指定します。

```
ftp> cd library
250 "library" IS CURRENT LIBRARY.
ftp>
```

3) PC 側で FTP の **put** サブコマンドを実行し、モジュールをシステムに転送します。以下は、PC で受信したモジュールを、ファイル "**EXPBLIBR**" に送信する場合は。

```
ftp> put PC側ファイル名 EXPBLIBR
200 PORT SUBCOMMAND REQUEST SUCCESSFUL.
150 SENDING FILE TO MEMBER EXPBLIBR IN FILE EXBLIBR IN LIBRARY library
250 FILE TRANSFER COMPLETED SUCCESSFULLY.
ftp: xxxxxx bytes sent in xx.xxSeconds xxx.xxKbytes/sec.
ftp>
```

この操作により、PC で受信したモジュールが、システム内の **library** ライブラリーの下の "**EXPBLIBR**" というファイルに保管されます。

"**EXPBLIBRM**" についても、同様の操作で、モジュールを送信してください。

4) 保管したファイルから、システムのライブラリーにモジュールを復元します。
システムのコマンドラインに“RSTLIB”と入力してPF4を押し、以下の項目を指定してください。

4-1) プログラムライブラリーの復元

“EXPBLIBR”に保管したモジュールを、ライブラリー“EXPBLIBR”に復元します。

ライブラリー復元 (RSTLIB)			
選択項目を入力して、実行キーを押してください。			
保管されたライブラリー	EXPBLIBR	← ①
装置	*SAVF	
保管ファイル	EXPBLIBR	← ②
ライブラリー	library	← ③
追加のパラメーター			
復元先ライブラリー	EXPBLIBR	← ④

- ① 必ず“EXPBLIBR”を指定してください。
- ② 1-1. の 2) で作成したファイル名を指定してください。
- ③ 1-1. の 1) で作成したライブラリー名を指定してください。
- ④ モジュールを復元するライブラリー名を指定します。この値は、必要に応じて変更することができます。

(注) ライブラリー名について

- もし以前のバージョンで同じ名前のライブラリーが使われている場合には、あらかじめライブラリー名を変更しておいてください。
- 複数セッションを行う際は、セッション毎にライブラリーを作成してください。

4-2) モジュールライブラリーの復元

“EXPBLIBRM”に保管したモジュールを、ライブラリー“EXPBLIBRM”に復元します。
各項目は、以下のように指定してください。

- ① 必ず“EXPBLIBRM”を指定してください。
- ② 1-1. の 2) で作成したファイル名を指定してください。
- ③ 1-1. の 1) で作成したライブラリー名を指定してください。
- ④ モジュールを復元するライブラリーは、必ず“EXPBLIBRM”を指定してください。変更はできません。

2. SNA LU6.2 接続のための設定

2-1. 構成リストの変更 (WRKCFGL)

“WRKCFGL” と入力し、実行キーを押してください。

1) APPN ローカル・ロケーションの定義

QAPPNLCL の定義を選択し、LU 名を次のように登録してください。

構成リスト変更

構成リスト : QAPPNLCL
 構成リスト・タイプ . . : *APPNLCL
 テキスト : *APPN RMT LIST FOR LEN

変更データを入力して、実行キーを押してください。

<p style="text-align: center;">-APPN ローカル・ロケーション -</p> <p>ローカル・ ロケーション テキスト</p> <p>luname EXPBASE/400 LCL</p>	<p style="text-align: center;">-APPN ローカル・ロケーション -</p> <p>ローカル・ ロケーション テキスト</p>
---	--

2) APPN リモート・ロケーションの定義

QAPPNRMT の定義を選択し、次のように登録してください。

構成リスト変更

構成リスト : QAPPNRMT
 構成リスト・タイプ . . : *APPNRMT
 テキスト : *APPN RMT LIST FOR LEN

変更データを入力して、実行キーを押してください。

APPN リモート・ロケーション						
	リモート・ ネットワーク	ローカル・ ロケーション	リモート・ 制御点	制御点 ネットワーク		保護 ロケーション
	ID	luname	点	ID	ロケーション・パ スタート	ロケーション
	QZQB62I1	NETNMS1	IBMCP	NETNMS1		*NO
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)		
APPL LU名	ネットワーク名	LU名				

- (注) リモートのことを遠隔、またローカルのことを構内と表示する場合があります。
- (注) (1)、(2)の組み合わせに対して(4)、(5)の組み合わせが対応している必要があります。
この例のリモート・ロケーション名(1)は、国内 IE/EX を指しています。
- (注) 国際 IE をお使いの場合はリモート・ロケーション名に“QZQB62I2”を指定してください。

2-2. モード記述作成 (CRTMODD)

“CRTMODD” と入力し、実行キーを押してください。

モード記述 LU62 を、次のように登録してください。

モード記述作成 (CRTMODD)	
選択項目を入力して、実行キーを押してください。	
モード記述	> LU62
最大セッション	8
会話の最大数	8
構内制御セッション数	4
事前結合セッション数	4
最大インバウンド歩調合せ値 . . .	7 または *CALC
インバウンド歩調合せ値	7
アウトバウンド歩調合せ値	7
要求単位の最大長	*CALC
データ圧縮	*NETATR
インバウンド・データの圧縮 . . .	*RLE
アウトバウンド・データの圧縮 . .	*RLE
テキスト'記述'	'EXPEDITE BASE/400 MODE'

- (注) 歩調合せ値のことをページング値と表示する場合があります。

2-3. 回線記述の作成 (CRTLINS DLC) (専用回線の場合)

“CRTLINS DLC” と入力し、実行キーを押してください。

ここでの登録は、使用する回線が専用回線か公衆回線かで異なります。

回線記述 EB4LINE を、次のように登録してください。

回線記述名 EB4LINE は必ずしもこの通りでなくても構いません。

回線記述作成(SDLC) (CRTLINS DLC)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

回線記述 > EB4LINE
資源名 > LIN011 <=お客様の環境に合わせる

値の続きは+

IPL時のオンライン > *YES
データ・リンクの役割 > *SEC
物理インターフェース *RS232V24
接続タイプ > *NONSWTPP
交換網バックアップ *NO
交換識別コード *SYSGEN
NRZIデータ・エンコード > *YES
回線速度 > 9600 <=接続する回線に合わせる。
サポートされるモデム・タイプ *NORMAL
最大フレーム・サイズ 521
二重 > *FULL <=接続する回線に合わせる。
非活動タイマー 300
ポーリング応答遅延 0
テキスト'記述' > 'EXPEDITE BASE/400 LEASED LINE'

2-4. 制御装置記述の作成 (CRTCTLHOST) (専用回線の場合)

“CRTCTLHOST” と入力し、実行キーを押してください。

ここでの登録は、使用する回線が専用回線か公衆回線かで異なります。

制御装置記述 EB4CTLHOST を、次のように登録してください。

回線記述名 EB4CTLHOST は必ずしもこの通りでなくても構いません。

制御装置記述作成(SNA 系) (CRTCTLHOST)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

制御装置記述	> EB4CTLHOST	
リンク・タイプ	> *SDLC	
IPL時のオンライン	*YES	
交換接続	> *NO	
交換網バックアップ	*NO	
APPN可能	*YES	
接続される非交換回線	> EB4LINE	<=2-3で定義した回線記述名
最大フレーム・サイズ	> 521	
リモート・ネットワーク 識別 コード	> NETNMS1	
リモート制御点	> IBMCP	
SSCP 識別コード		
ローカル交換識別コード	*LIND	
端末アドレス	> 01	<= VTAMのPUに合わせる。
APPN CPセッション・サポート	*YES	
リモート APPN ノードのタイプ	> *LENNODE	
分岐拡張の役割	*NETNODE	
APPN/HPR 使用可能	*YES	
HPR パス・スイッチ	*NO	
APPN伝送グループ番号	1	
APPN最小交換状況	*VRYONPND	
装置の自動作成	*ALL	
自動削除装置	1440	
ユーザー定義1	*LIND	
ユーザー定義2	*LIND	
ユーザー定義3	*LIND	
テキスト'記述'	> 'EXPEDITE BASE/400 CTLHOST FOR LEASED LINE'	

2-5. 装置記述の作成 (CRTDEVAPPC) (専用回線の場合)

“CRTDEVAPPC” と入力し、実行キーを押してください。

ここでの登録は、使用する回線が専用回線か公衆回線かで異なります。

制御装置記述 EB4DEV を、次のように登録してください。

回線記述名 EB4DEV は必ずしもこの通りでなくても構いません。

装置記述作成(APPC) (CRTDEVAPPC)		
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
装置記述	> EB4DEV	
リモート・ロケーション	> QZQB62I1	<=国内IEの場合
IPL時のオンライン	> *YES	
ローカル・ロケーション	> luname	<=AS/400側のLU名
リモート・ネットワーク 識別 コード	> NETNMS1	
接続される制御装置	> EB4CTLHOST	<=2-4で定義した制御装置名
モード	> LU62	
メッセージ待ち行列	QSYSOPR	
ライブラリー	*LIBL	
APPN可能	*YES	
単一セッション:		
単一セッション可能	> *YES	
会話の数	> 4	
ローカル制御セッション	*NO	
テキスト'記述'	> 'EXPEDITE BASE/400 DEV'	
追加のパラメーター		
ローカル・ロケーション・アドレス	> 01	<=複数LUを用いる時に 02, 03, ...

(注) 国際 IE をお使いの場合はリモート・ロケーション名が QZQB62I2 となります。

(注) ローカル・ロケーション・アドレスは VTAM 定義上の NCP Local Location Address と一致させてください。

2-6. 回線記述の作成 (CRTLINS DLC) (公衆回線の場合)

“CRTLINS DLC” と入力し、実行キーを押してください。

ここでの登録は、使用する回線が専用回線か公衆回線かで異なります。

回線記述 EB4LINE を、次のように登録してください。

回線記述名 EB4LINE は必ずしもこの通りでなくても構いません。

回線記述作成(SDLC) (CRTLINS DLC)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

```

回線記述 . . . . . > EB4LINE
資源名 . . . . . > LIN011      <=お客様の環境に合わせる
      値の続きは+
      IPL時のオンライン . . . . . > *YES
      データ・リンクの役割 . . . . . > *NEG
      物理インターフェース . . . . . *RS232V24
      接続タイプ . . . . . > *SWTPP
      オンへの構成変更待機 . . . . . *NOWAIT
      自動呼出し装置 . . . . . *NO
      交換識別コード . . . . . > 056aaaaa      <=VTAMLSTのIDNUM
      NRZIデータ・エンコード . . . . . > *YES
      回線速度 . . . . . > 2400
      サポートされるモデム・タイプ . . . . . *NORMAL
      交換接続タイプ . . . . . > *DIAL
      自動返答 . . . . . *NO
      自動ダイヤル呼出し . . . . . > *YES
      ダイヤル 呼び出し コマンド の タイプ . . . . . > *V25BIS
      呼出し番号 . . . . . *NONE
      端末アドレス . . . . . > 01
      最大フレーム・サイズ . . . . . 521
      二重 . . . . . > *FULL      <=接続する回線に合わせる。
      非活動タイマー . . . . . 300
      ポーリング応答遅延 . . . . . 0
      非生産受信タイマー . . . . . 320
      アイドル・タイマー . . . . . 30
      接続ポーリング・タイマー . . . . . 30
      ポーリング・サイクル休止 . . . . . 0
      フレーム再試行 . . . . . 7
      データ・セット・レディ脱落タイマー . . . . . 6
      自動返答タイプ . . . . . *DTR
      遠隔返答タイマー . . . . . 60
      テキスト 記述 . . . . . > 'EXPEDITE BASE/400 LINE'
  
```

2-7. 制御装置記述の作成 (CRTCTLHOST) (公衆回線の場合)

“CRTCTLHOST” と入力し、実行キーを押してください。

ここでの登録は、使用する回線が専用回線か公衆回線かで異なります。

制御装置記述 EB4CTLHOST を、次のように登録してください。

回線記述名 EB4CTLHOST は必ずしもこの通りでなくても構いません。

制御装置記述作成(SNA 本) (CRTCTLHOST)		
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
制御装置記述	> EB4CTLHOST	
リンク・タイプ	> *SDLC	
IPL時のオンライン	*YES	
交換接続	> *YES	
短期保留モード	*NO	
APPN可能	*YES	
交換回線リスト	> EB4LINE	<=2-6で定義した回線記述名
最大フレーム・サイズ	> 521	
リモート・ネットワーク 識別 コード	> NETNMS1	
リモート制御点	> IBMCP	
SSCP識別コード	> 056aaaa0000	<=VTAMLSTのIDNUM
ローカル交換識別コード	*LIND	
初期接続	*DIAL	
ダイヤル開始	*LINKTYPE	
接続番号	> 'Tzzzzzzzzzz'	<=ダイヤル先の電話番号
端末アドレス	> 01	<= VTAMのPUに合わせる。
APPN CPセッション・サポート	*YES	
リモート APPN ノードのタイプ	> *LENNODE	
分岐拡張の役割	*NETNODE	
APPN/HPR 使用可能	*YES	
テキスト'記述'	> 'EXPEDITZE BASE/400 CTLHOST FOR SWITCHED LINE'	

2-8. 装置記述の作成 (CRTDEVAPPC) (公衆回線の場合)

“CRTDEVAPPC” と入力し、実行キーを押してください。

ここでの登録は、使用する回線が専用回線か公衆回線かで異なります。

制御装置記述 EB4DEV を、次のように登録してください。

回線記述名 EB4DEV は必ずしもこの通りでなくても構いません。

装置記述作成(APPC) (CRTDEVAPPC)		
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
装置記述	> EB4DEV	
リモート・ロケーション	> QZQB62I1	<=国内IE/EXの場合
IPL時のオンライン	> *YES	
ローカル・ロケーション	> luname	<=AS/400側のLU名
リモート・ネットワーク 識別 コード	> NETNMS1	
接続される制御装置	> EB4CTLHOST	<=2-7で定義した制御装置名
モード	> LU62	
メッセージ待ち行列	QSYSOPR	
ライブラリー	*LIBL	
APPN可能	*YES	
単一セッション:		
単一セッション可能	> *YES	
会話の数	> 4	
ローカル制御セッション	*NO	
テキスト'記述'	> 'EXPEDITE BASE/400 DEV'	
追加のパラメーター		
ローカル・ロケーション・アドレス	> 01	<=複数LUを用いる時に 02, 03, ...

(注) 国際 IE をお使いの場合はリモート・ロケーション名が QZQB62I2 となります。

(注) ローカル・ロケーション・アドレスは VTAM 定義上の NCP Local Location Address と一致させてください。

3. TCP/IP 接続のための設定

Expedite Base/400 の TCP/IP 接続機能をご利用になるためには、システム上での TCP/IP 接続が完了していること (IE/EX への PING が通ること) が前提となります。

ここでは TCP/IP ダイアルアップ接続のための設定についてサンプルを紹介します。実際の使用に当たってはお客様の環境に合わせて設定していただく必要があります。

専用線 (WAN) 接続等に関しては、ネットワークを提供する技術担当員に上記の前提を満たすことをご確認ください。

なおこの章は、英文原典資料『Expedite Base/400 Programming Guide Version 4 Release 6』(GC34-2254-02) "Chapter 10.Expedite Base/400 installation overview" の内容をもとに、国内でご利用になる場合に必要となる変更点を記述したものです。英文原典資料も併せてご覧ください。

3-1. TCP/IP ダイアルアップ接続のための準備

LIG を経由した TCP/IP ダイアルアップ接続を行なうためには、PPP (Point-to-Point Internet Protocol) を使用します。接続の定義をする際は

iSeries Access Family (5722-XW1)

に含まれている **iSeries Access for Windows** をご使用ください。以下の章では、このソフトウェアを前提として設定方法をご紹介します。

(注) **iSeries Access for Windows** を PC に導入する際、「標準」を選択すると、設定で必要になるネットワーク関連の機能が導入されません。「カスタム」等を選択して必ず「ネットワーク」コンポーネントも導入してください。

その他、導入についての詳しい情報は『**iSeries Access for Windows – セットアップ V5**』(SD88-5067-03) 等の資料をご覧ください。

その他に、TCP/IP ダイアルアップ通信を行なうためには、次の準備が必要です。

- TCP/IP ダイアルアップ通信に用いる非同期モデムが、正しくシステム上に定義されていること
- Secure IP ダイアルアップ接続のための LIG のユーザーID を取得していること

3-2. PPP 接続のための設定

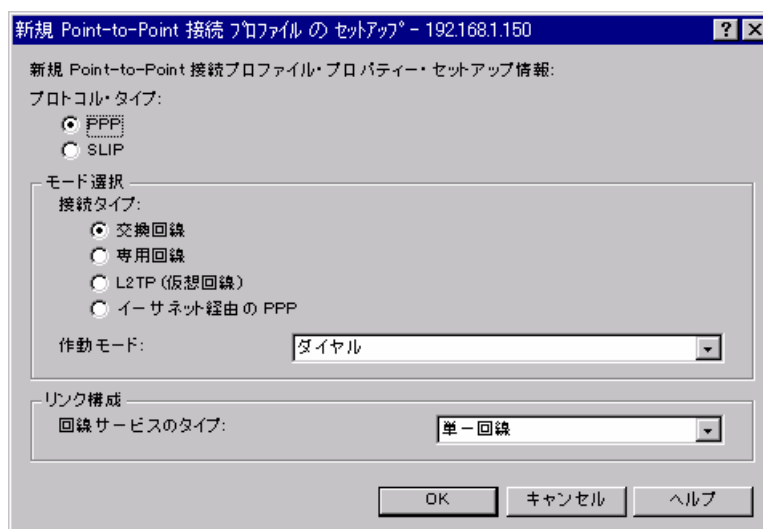
PPP 接続をするためには、iSeries Access for Windows の iSeries ナビゲーターを使って、システム上に PPP 接続用の回線記述と構成プロファイルを設定する必要があります。

(注) PPP 接続用の通信記述として、システム上には、回線記述・制御装置記述・装置記述の 3 つが必要ですが、これらは自動的に作成されますので、システム上で定義する必要はありません。詳しくは「3-3. 回線記述の作成/変更」をご覧ください。

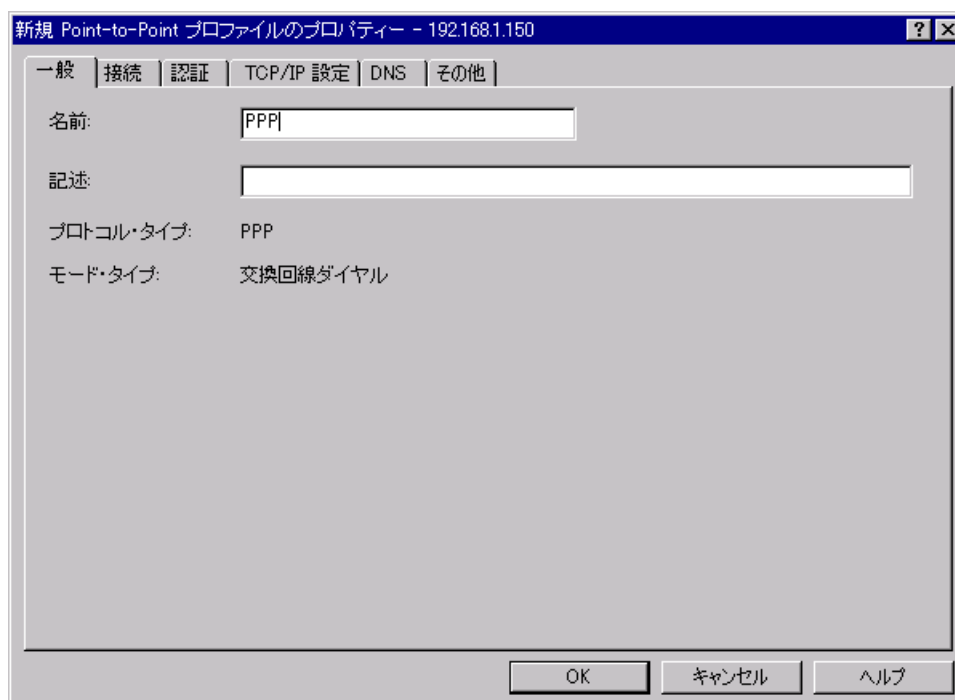
1) iSeries ナビゲーターを起動した後、お使いのシステムをクリックしてシステムにサインオンしてください。導入したコンポーネントが表示されますので、『ネットワーク』→『リモート・アクセス・サービス』の順にダブルクリックしてください。

2) 『発信元接続プロファイル』を右クリックして『新規プロファイル』を選択します。各項目に次の値を指定して、OK をクリックしてください。

プロトコル・タイプ	: PPP
接続タイプ	: 交換回線
作動モード	: ダイヤル
回線サービスのタイプ	: 単一回線



3) 「新規 Point-to-Point プロファイルのプロパティ」の画面が出てきますので、『一般』タブを選択し、名前（10文字以内の英数字）を入力します。ここで指定した値がシステムに反映されて、同じ名前の構成プロファイルが作成されます。

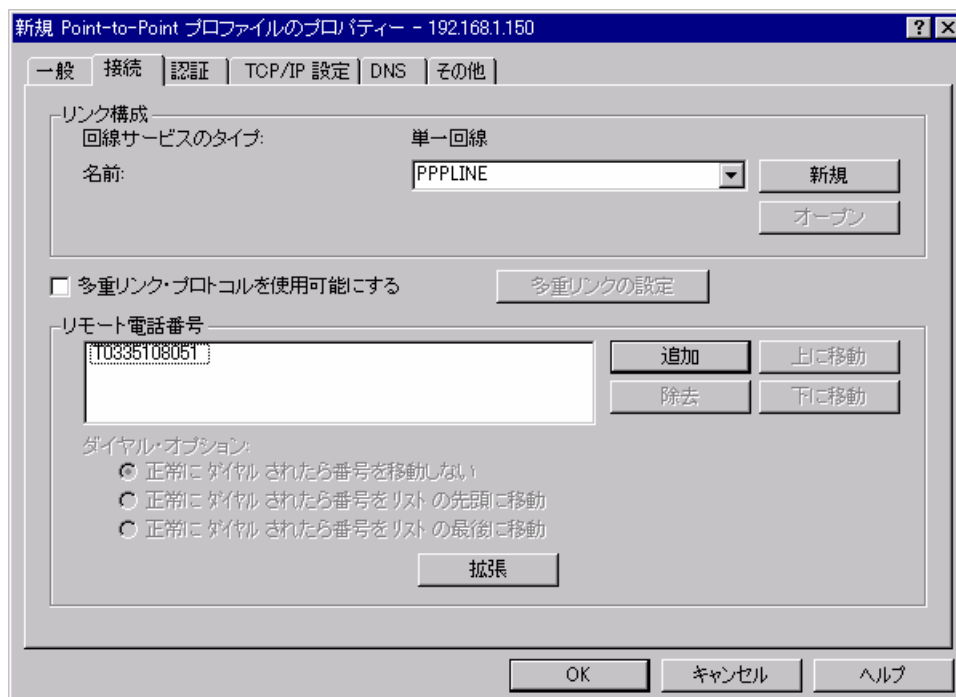


4) 『接続』タブを選択し、次の値を入力します。

名前 : PPP用の回線記述名 (注1)

リモート電話番号の「追加」のボタンをクリックしてから

リモート電話番号 : LIGに接続するためのポートの電話番号



(注1) 「名前」フィールドの右端の矢印をクリックして表示されるリストは、既にシステムで定義済みの PPP 用の回線記述名です。新規に作成される場合は「3-3. 回線記述の作成/変更」をご覧ください。

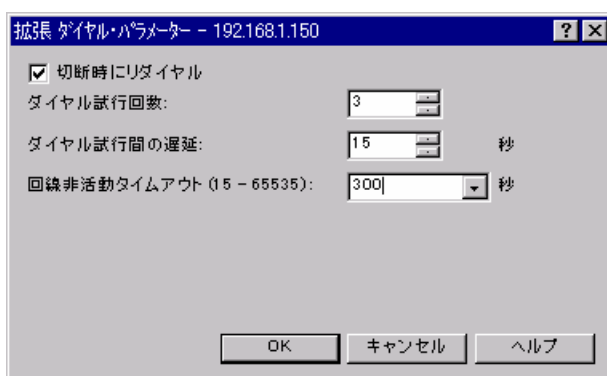
5) 画面の下にある『拡張』ボタンをクリックし、「切断時にリダイヤル」をチェックしてから

回線非活動タイムアウト : 300 秒

を指定して、OK をクリックしてください。

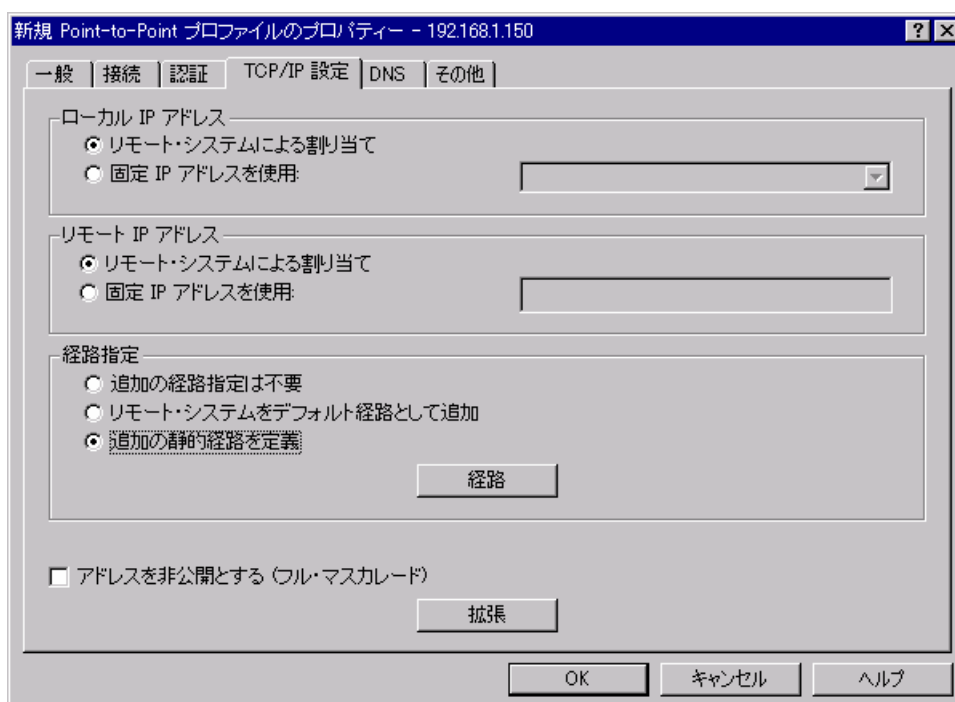
この値は TCP/IP の接続が確立してから Expedite Base/400 が通信を始めるまでの待ち時間となります。この間に通信が始められない場合には回線が切断されます。

(注) 『拡張』ボタンが半透明のままクリックできないときは、リモート電話番号の欄を一度クリックしてみてください。



6) 『TCP/IP 設定』タブを選択し、ローカル IP アドレスとリモート IP アドレスの両方とも「リモート・システムによる割り当て」をチェックしてください。

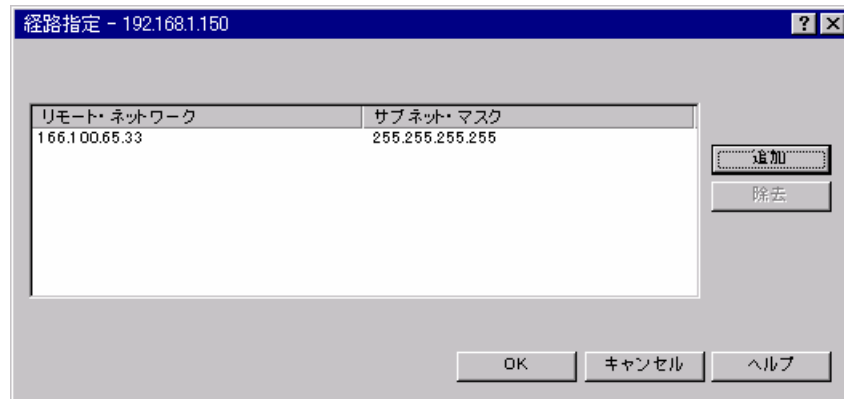
経路指定の箇所は「追加の静的経路を定義」を選択し『経路』ボタンをクリックしてください。



7) 経路指定の画面が表示されますので、ここで IE/EX の IP アドレスを指定します。画面の右側にある「追加」ボタンをクリックして

リモート・ネットワーク : 166.100.65.33 (IE/EX の IP アドレス)
サブネット・マスク : 255.255.255.255

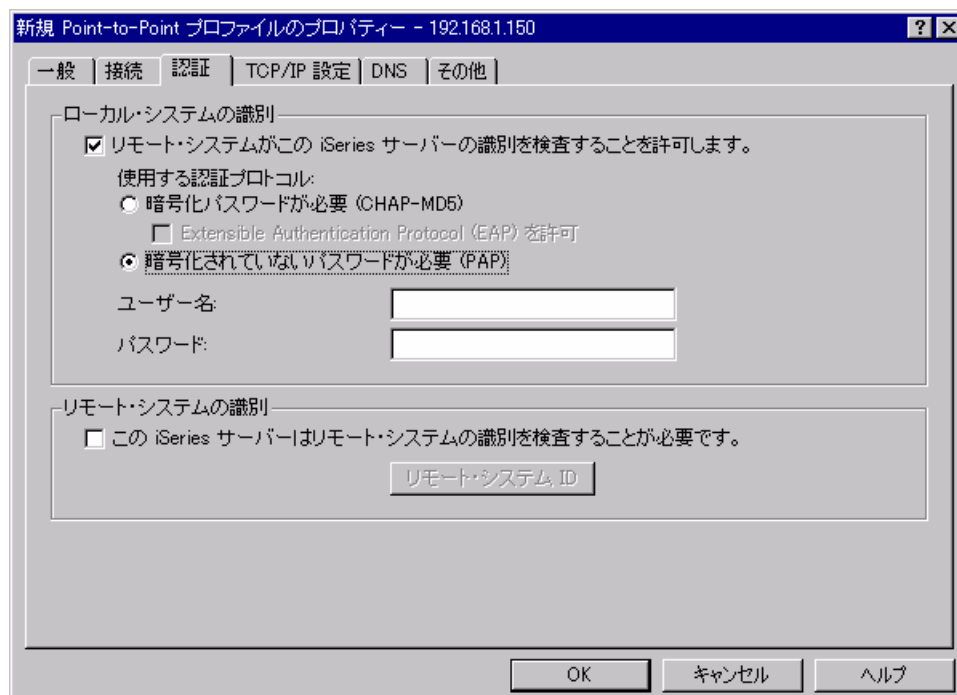
を指定してから、OK をクリックしてください。



経路が追加されたのを確認できたら、OK をクリックしてください。

8) 次に『認証』タブを選択し、ローカル・システムの識別の「リモート・システムがこの iSeries サーバーの識別を検査することを許可します。」をチェックしてから、以下の値を入力してください。

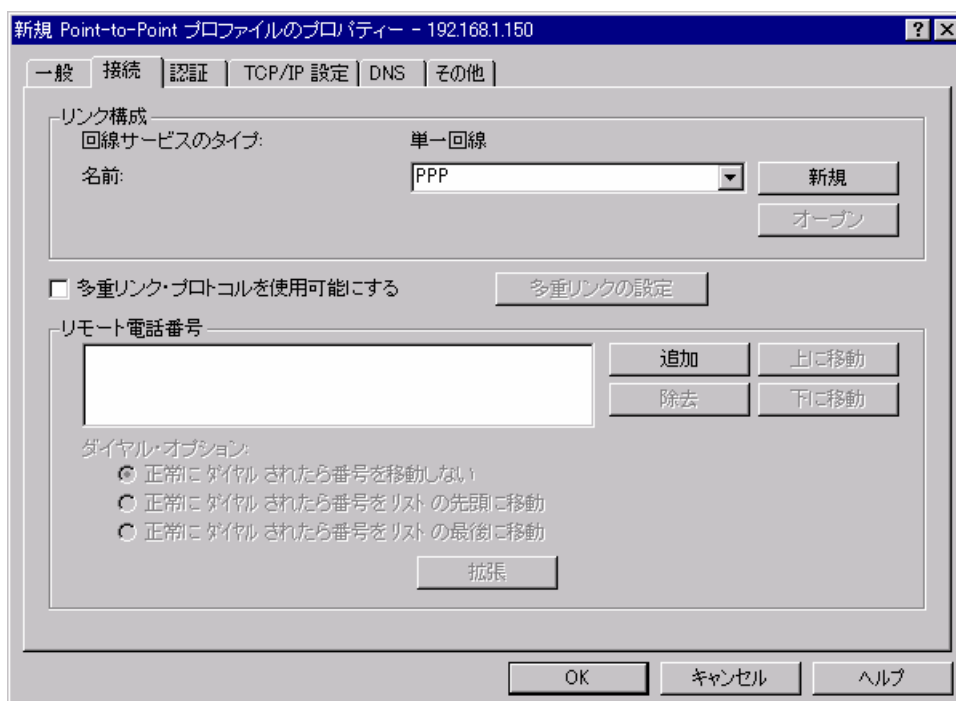
「暗号化されていないパスワードが必要 (PAP)」を選択
ユーザー名 : LIG のユーザーID を `secureip.acct.userid` の形式で入力
(注) ユーザー名の指定方法
secureip : “secureip” の値をそのまま指定してください。
acct : LIG の顧客コードを指定してください。
userid : LIG のユーザーID を指定してください。
パスワード : LIG のパスワードを指定



OK をクリックすると「パスワードの確認」の画面が出てきますので、再度パスワードを指定して OK をクリックしてください。プロファイルのリストに戻ったら設定は終了です。
この時点でシステム上には、3) で指定した名前の構成プロファイルが作成されています。システムのコマンドラインから WRKTCPTP などを実行することにより、作成した構成プロファイルの状況を確認できます。

3-3. 回線記述の作成/変更

PPP 用の回線記述を新規に作成される場合は、『接続』タブで名前を入力後、新規ボタンをクリックしてください。ここで指定した名前で、システム上の回線記述が作成されます。
既存の回線記述を変更する場合は、「名前」の項目の右側の矢印をクリックして変更する回線を選択し、「オープン」をクリックしてください。



(注) システム上の通信記述について

この章の操作で作成されるのは、PPP 用の回線記述のみです。制御装置記述と装置記述は、最初のセッションを実行した際に自動的に作成されます。その際、制御装置記述名は “回線記述名+NET”、装置記述名は “回線記述名+TCP” で作成されます。

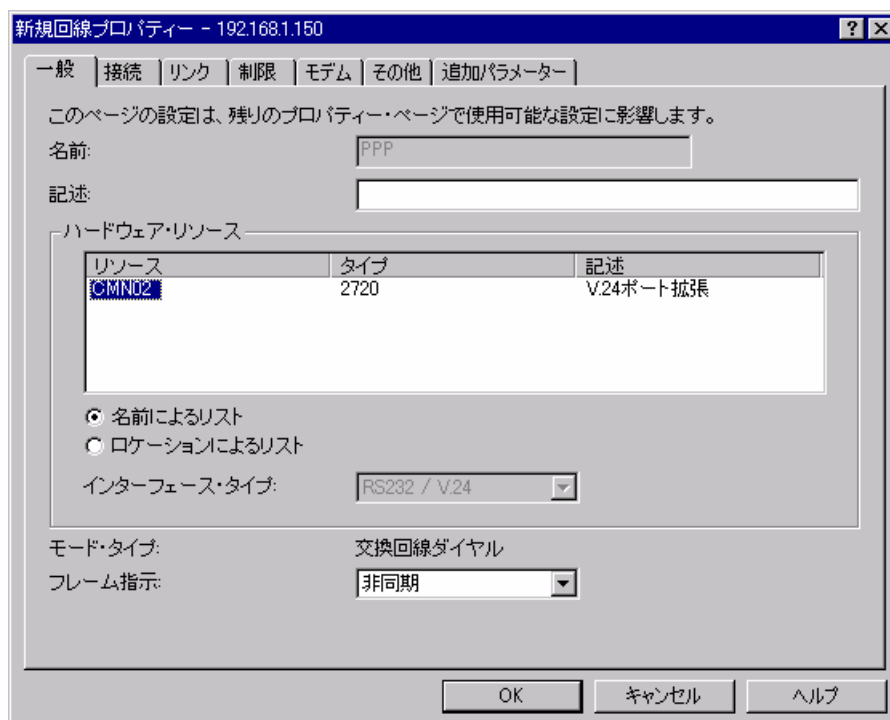
例えば上記の場合は、回線記述名は “PPP” で作成されますが、その他の記述名はそれぞれ

制御装置記述名	: PPPNET
装置記述名	: PPPTCP

になります。

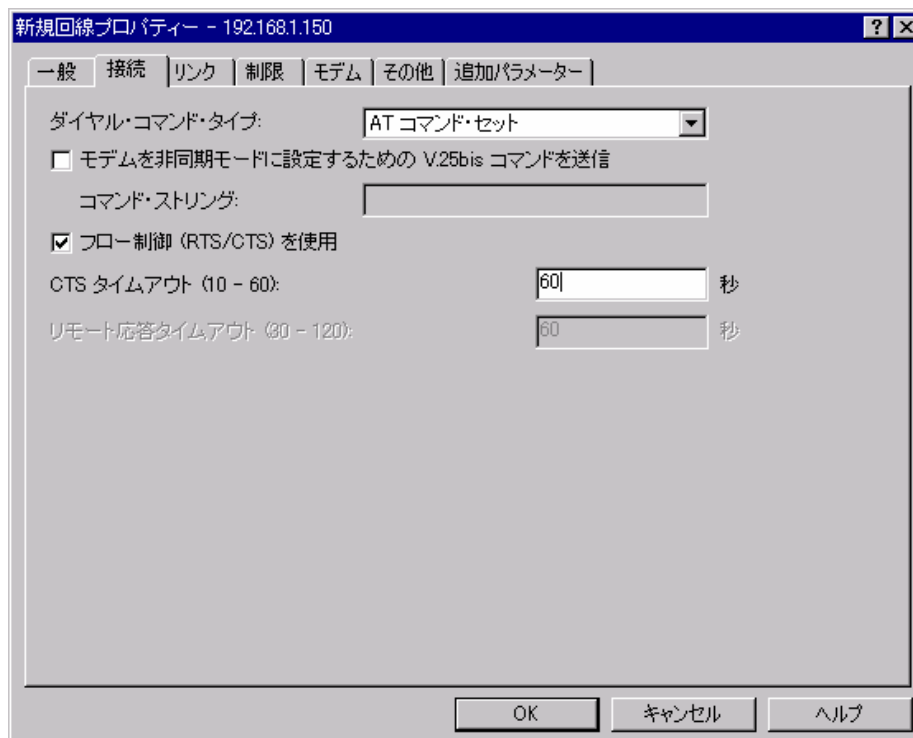
回線記述名がもっと長い場合は、回線記述名の最初の 5 文字の後ろに “NET” と “TCP” が追加されます。

『一般』タブでインターフェースタイプとして **RS232/V.24** を持つ適切なハードウェア・リソース名をクリックして強調表示にします。



『接続』タブを選択し、次の値を入力してください。

ダイアルコマンドタイプ : AT コマンドセット
CTS タイムアウト : 60 秒



その他、お客様の環境に合わせて、以下の項目を設定してください。

回線速度：『リンク』タブを選択して、お客様の環境に合った回線速度を入力してください。

モデム：『モデム』タブを選択して、お客様のモデムに該当するものを名前のリストから選択してください。

全ての設定が終わったら **OK** をクリックして、作成／変更を保存してください。

4. Expedite Base/400 の実行

4-1. プロファイルコマンドファイルの作成

ライブラリー **EXPBLIBR** にプロファイルコマンドファイル **INPRO** を作成します。
接続するプロトコルにより、コマンドの内容が異なります。

1) SNA 接続のためのプロファイルコマンドファイルの例

```
IDENTIFY IEACCOUNT(アカウントID) IEUSERID(ユーザーID) IEPASSWORD(パスワード);  
SNACOMM IELUNAME(QZQB62I1) USERLUNAME(luname) IELUNETID(NETNMS1) IELUMODE(LU62);
```

(注) 国際 **IE** をお使いの場合は、**IELUNAME** に **"QZQB62I2"** を指定してください。

2) TCP/IP 接続のためのプロファイルコマンドファイルの例

```
IDENTIFY IEACCOUNT(アカウントID) IEUSERID(ユーザーID) IEPASSWORD(パスワード);  
TCPCOMM IETCPHOST1(166.100.65.33) IETCPPORT1(3003);  
TRANSMIT COMMTYPE(T);
```

(注) 国際 **IE** をお使いの場合は、**IETCPPORT1** に **"3002"** を指定してください。

4-2. メッセージコマンドファイルの作成

ライブラリー **EXPBLIBR** にメッセージコマンドファイル **INMSG** を作成します。
ファイルを送信する場合のメッセージコマンドファイルの例は、以下のようになります。

```
SEND ACCOUNT(アカウントID) USERID(ユーザーID) FILEID(ファイル名) CLASS(メッセージ識別コード);
```

4-3. 通信の開始

1) SNA 接続の場合

以下の手順で通信記述の状況を確認し、オフになっている場合はオンに構成変更してください。

- a. システムのメイン・メニューのオプション **6**. (通信) を選んでください。
- b. 「通信」画面のオプション **1** (通信状況) を選んでください。
- c. 「通信状況」画面のオプション **1** (回線状況) を選んでください。
- d. 「構成状況処理 (WRKCFGSTS)」画面の「構成記述」の項目に、定義した回線記述名を指定して実行キーを押してください。
- e. 表示された回線記述・制御装置記述・装置記述の状況を確認し、オフになっている場合はオンに切り換えてください。

2) TCP/IP 接続の場合

ダイアルアップの場合、TCP/IP の接続を開始するには、**iSeries** ナビゲーターをお使いになる方法と、**STRTCPPTP** コマンドをお使いになる方法とがあります。

2-1) iSeries ナビゲーターをお使いになる方法

- a. iSeries ナビゲーターを起動してシステムにログインしてください。
- b. お使いのシステムの「ネットワーク」→「リモート・アクセス・サービス」→「発信元接続プロファイル」をクリックして、プロファイルの一覧を表示させてください。
- c. お使いになるプロファイルを選択して、右クリックでポップアップメニューを開いて、そこで「開始」を選択してください。接続が完了すると、状況の箇所が「アクティブ」になります。(PF5で最新情報が表示されます。)
- d. 終了する場合は、ポップアップメニューの「停止」を選択してください。

2-2) STRTCPPTP コマンドをお使いになる方法

システムのコマンドラインから

STRTCPPTP profile ← お使いになる構成プロファイル

と入力して、実行キーを押してください。

終了する場合は、ENDTCPPTP コマンドをお使いください。

3) TCP/IP 接続の確認方法

システムのコマンドラインから NETSTAT コマンドを実行して、「TCP/IP ネットワーク状況の処理」の画面からオプション 2 (TCP/IP 経路情報の表示) を選択してください。

この画面で、経路宛先「166.100.65.33 (国内 IE/EX)」までの経路が使用可能かどうかを確認できます。(PF5 を押すことにより、最新情報が表示されます。)

または、PING を使って、直接パケットを送信することにより確認することもできます。

4-4. Expedite Base/400 の起動

プログラムを起動する際は、プログラムライブラリーとモジュールライブラリーを、ライブラリー・リストに追加する必要があります。コマンドラインに次のコマンドを入力して、実行キーを押してください。

(ライブラリー・リストへの追加は、サインオンの後、一度だけ必要です。)

1) プログラムライブラリーの追加

ADDLIBLE EXPBLIBR

(注) "EXPBLIBR" の箇所には、お使いのプログラムライブラリーの名前を指定してください。

2) モジュールライブラリーの追加

ADDLIBLE EXPBLIBRM

3) Expedite Base/400 の起動

CALL IEBASE

4-5. ご利用上の注意点

以前のバージョンと同様に、接続するサービスシステムによっては利用できない機能がありますのでご注意ください。

1) 国内 IE/EX V2.3 でサポートされない機能

①Compression

Compression Program は日本ではサポートされていません。

②180 day Message Retention Maximum

国内 IE/EX においてはユーザー・プロファイルの指定が優先されるため、メッセージの期限を指定することはできません。

2) 国際 IE のみでサポートされる機能

①SENDEDI コマンドの拡張

他の IE システムのユーザーにファイルを送信できます。

3) IE/EX の IP アドレスの指定方法について

プロファイルコマンドファイル (INPRO) で TCPCOMM コマンドをお使いになる際、IETCPHOST1 で指定するアドレスは、アプリケーションレベルのセッションで使用されますので、ここにプライベートアドレスを指定することはできません。
必ず、IE/EX のアドレスである「166.100.65.33」を指定してください。